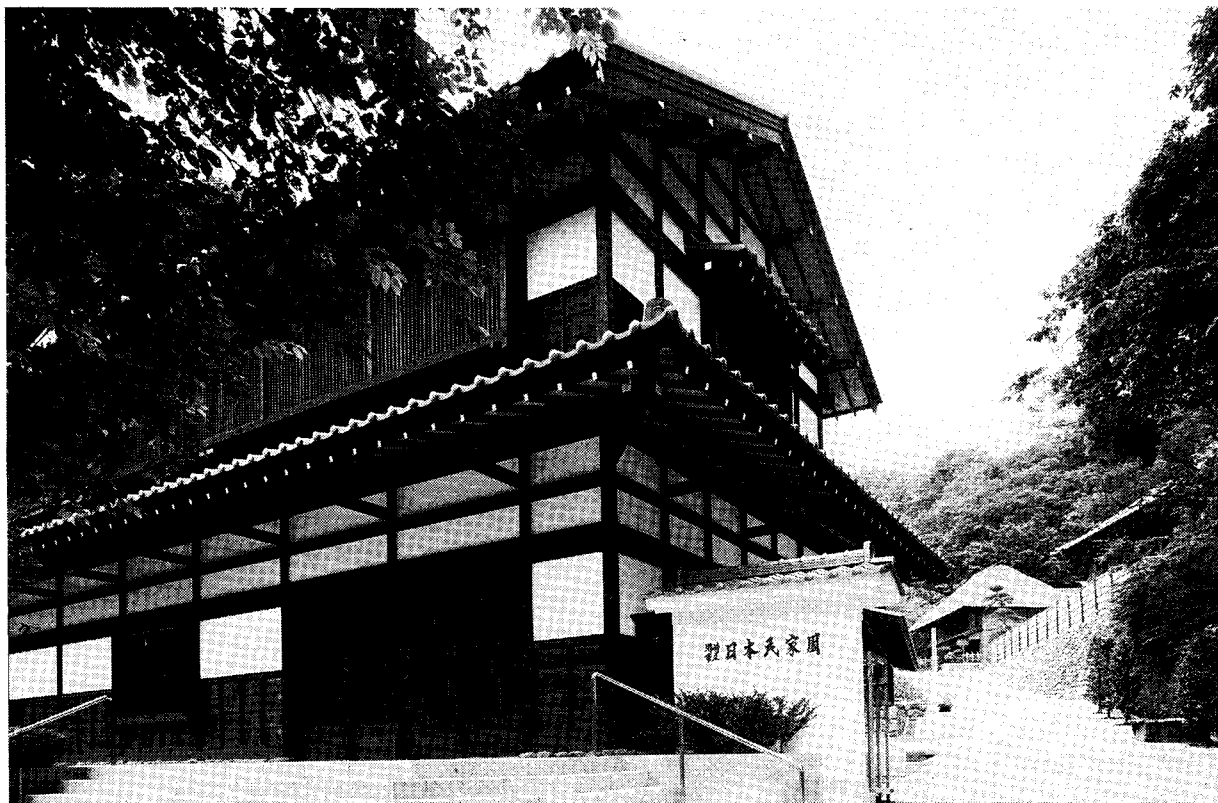


川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 36号 平成9年3月31日 編集・発行 川崎市立日本民家園

開園30年を迎える日本民家園

年間を通し多彩な記念行事を行います



全国各地の古民家を集めた野外博物館川崎市立日本民家園が開園したのは昭和42年4月1日。

当時日本は経済の高度成長期に入り、人々の生活や価値観も大きな転換の時期を迎えておりました。そこで失われていく伝統的な生活文化を保存するミュージアムとしてスタート。

開園後も民家建築史上、貴重な質の高い古民家収集の努力がはらわれ、現在では豊かな自然

環境のなか25軒の建造物が移築保存・活用されています。

平成4年7月本館（管理・展示棟）が完成、同6年には当園の「近世民家の体系的収集保存公開と環境整備」に対し日本建築学会賞が受賞されました。

日本民家園は今後とも建築と生活文化の研究拠点として活発な活動を展開いたします。

開園30周年記念行事 — 平成9年4月～9月 —

祈りの造形 ★

— 日本仏教美術史入門講座

全10回

4/24～6/26の毎週木曜

PM1:30-3:30 三輪修三(民家園学芸員)

受講料 3000円 40名

4/12/切消印有効



旧山田家 神奈川県重要文化財指定記念

合掌民家講座 ★

全5回

5/2～5/30の毎週金曜

PM1:30-3:30 大野 敏(民家園技術職員)

受講料 2000円

40名 4/19/切消印有効

炉端で語る昔話 ☆

協力 民具製作技術保存会

第1回 4/29(祝)

「うりひめ」他

話者 松島志延氏

第2回 5/4(祝)

「秋田地方の民話」他

話者 鎌田俊三氏

各日2回(AM11:00-、PM2:00-)

無料(但し入園料は必要です)



佐々木家

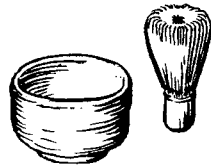
お茶席の会 ☆

5/3(祝) AM10:00-川崎文化財友の会

5/11(日) " たちばな会

一服 300円

佐々木家



記念

テレホンカード・

絵はがき(白黒)製作中

初代園長 記念講演会 ☆

おおいに語る

古江亮仁氏

4/27(日) PM1:00-3:00

開園に至る経過、エピソード、園の理念などを話していただきます。

参加無料(但し入園料は必要です)40名

記念連続講演会

建築と日本文化 全10回 ★

第1回 5/5(祝)

「神社建築の成立」

稲垣栄三氏(東大名誉教授)4/19/切

第2回 6/15(日)

「台所・流しの歴史」

大河直躬氏(千葉大名誉教授)6/3/切

第3回 6/22(日)

「日本建築の内部空間」

—障壁画と建築—

西 和夫氏(神奈川大学教授)6/10/切

PM1:30-3:30 受講料 各回1000円

各回40名 /切日消印有効

尚、第4回以降、浜島正士氏「日本の塔」・

陣内秀信氏「ルネサンスの住宅建築—フィレンツェとヴェネツィア」・斎藤英俊氏

「桂離宮とその文化的背景」・鈴木嘉吉氏

「日本の仏堂」・関口欣也氏「仏教建築の

原像」等を予定。

建物とくらし ☆

—民家園職員によるトーク集—

第1話 6/6(金) 野呂瀬正男

ドクター野呂瀬の解体新書

—古民家の解体移築余話— 工藤家

第2話 6/20(金) 増子章二

道具の歴史—縄文から現代まで—

第3話 7/18(金) 三輪修三

大善寺 中世の見える風景

PM1:30-3:30 無料(但し入園料は必要です)

体験学習講座 など

体験学習講座 ★

はた織り

5/11、18、25 (各日曜) 3回連続

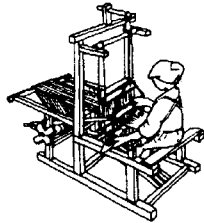
AM10:00 - PM3:00

20名(2日間以上参加

できる人、中学生以上)

受講料 2000円

5/2~~7~~切必着



体験学習講座 ★

竹細工

「たて型四つ目花籠」作り

6/8、22 (各日曜)

AM10:00 - PM3:00 各回30名 作田家

受講料 各回1000円 5/30~~7~~切必着

体験学習講座 ★

わら細工「ぞうり」作り

6/15、29 (各日曜)

AM10:00 - PM3:00 各回30名 作田家

受講料 各回 700円 6/6~~7~~切必着

子ども体験教室 ★★

5/24 (土) わら細工 (ぞうり)

6/28 (土) 竹細工

9/27 (土) わら細工 (亀・馬)

AM10:00 - PM3:00 小学生~高校生

各回10名 無料 作田家

電話申込み順 (その月の1日から)

当日、小学生~高校生は入園料も無料

共催 民具製作技術保存会

親子体験教室 (竹細工) ★

7/27、8/3 (各日曜)

竹細工の朝顔を作ります。

AM10:00 - PM3:00 作田家

15組 (親子2人で1組・小学生以上)

受講料 各回1組 800円 7/18~~7~~切必着

親子体験教室 (わら細工) ★

7/13、8/10 (各日曜)

あしなかぞうりを作ります。

AM10:00 - PM3:00 作田家

15組 (親子2人で1組・小学生以上)

受講料 各回1組 700円

7/13分は7/4~~7~~切 8/10分は8/1~~7~~切必着



わら細工「かめ・馬」作り ★

8/24 (日)

わらで亀・馬などの郷土

玩具を作ります。

AM10:00 - PM3:00

30名 受講料 700円

作田家



8/15~~7~~切必着 体験学習講座

記念講座 芸能と農村舞台 ★

9/6、13、20、27 (各土曜)

10/12 (日) 全5回

後藤 淑氏・大谷津早苗氏 (昭和女子大)

による民俗芸能史の講演と、人形芝居の上
演 (最終日) を予定。

40名 受講料3500円 8/26~~7~~切必着

秋からも、記念行事、民家園まつり、古民家見学ツアーなど、行事が続きます。お楽しみに!

申込み方法

★印は、往復ハガキで申し込んでください。(住所・氏名・電話・講座名・受講日を記入。) 定員を超えた場合は抽選となります。 ☆印は、申込不要。当日直接おいでください。

★★印は、電話受付です。 会場名のないものは、旧原家で開催します。

世界遺産の茅葺き技術競演

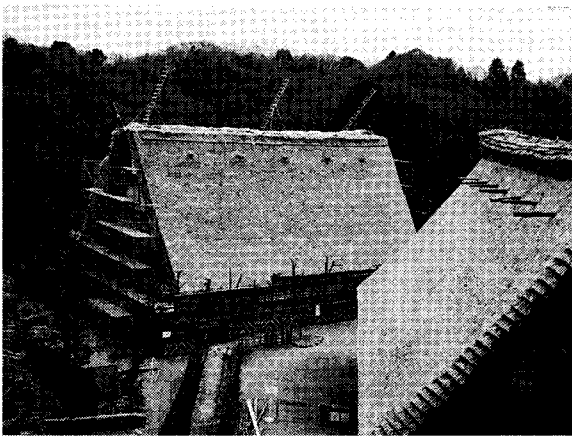
合掌造の屋根修理

日本民家園では日頃より古民家維持修理の保存技術に関心を払っており、特に地方色の強い茅葺きの場合は建物の旧所在地から職人を招きたいと考えています。そして今回合掌造の屋根修理でこれが実現しましたので、合掌造と屋根修理について紹介したいと思います。

合掌造は、豪雪地帯として名高い岐阜県白川郷（白川村・荘川村）と富山県五箇山地方（上平村・平村・利賀村）に特有な民家形式で、約60度の急傾斜の茅葺き屋根を長大な合掌で支えることからこの名があります。合掌は又首ともいい、屋根の骨組みを作る斜めの太い木材のことで、日本の民家によく使われています。しかし単に合掌を持つだけでは合掌造と呼ばないところを見ると、白川郷と五箇山の民家の合掌がいかん特徴的かが想像できるでしょう。長大な合掌によって作り出される屋根裏は、何層かに区切られ、養蚕や食料貯蔵に使われました。また、雪に閉ざされた冬場は床下で火薬原料となる煙硝を作っていた家が多く、床が高い点も特徴です。

ところで一口に合掌造と言ってもすべて同形式ではありません。まず飛騨（岐阜県）と越中（富山）で2分され、さらに飛騨は白川村と荘川村、五箇山は利賀村とそれ以外の地域に分けられるので合計4系統となります。この違いを端的に示すのは屋根です。白川村系は切妻造とするのに対して荘川村系は入母屋造とします。一方五箇山では切妻造を基本に妻側の張り出し部分も茅葺きとするため入母屋造のようにみえます。さらに利賀村以外の五箇山は屋根の両端部分（破風という）の作り方が独特です。また、合掌造に共通する屋根の特徴としてネソ（マンサクの若木をよじって柔らかくしたもの）を巻き付ける下地結束法と、茅束を水平に積み上げて作る棟形式がありますが、棟両端の飾り方は白川村系、荘川村系、五箇山系で微妙に異なっています。このように合掌造の屋根は急傾斜かつ重厚だけでなく、細かな地域性を判別する重要な見所なのです。

そこで本園の合掌造に目を向けると、移築された四件のうち三件は、白川系（旧山下家）、五箇山系（旧江向家）、五箇山利賀系（旧野原家）の典型的な姿を示しています。残りの旧山田家は特殊な存在で、旧所在地の桂集落が飛越国境の山奥に位置し、飛騨側の加須良集落と一種の共同体を形成していた関係上、建物平面は白川村の特徴を示しています。屋根は修理の際の協力体制により白川村系あるいは五箇山系を繰り返したと想像されます。これら四件はいずれも保存状態が



旧山下家と旧山田家
手前は山田家で差し茅修理が終わったところ。
中央は山下家で、反対側の屋根葺きが進んでいるところ。

良く学術的価値も高いことから、国あるいは神奈川県的重要文化財に指定されています（旧山田家は今年二月に県指定となりました）。移築に際しては神奈川県茅葺き職人さんが屋根を解体し、葺き方の要点をおぼえて再現しました。しかし元々葺き方が全く異なるのですから肝心な部分はうまく再現できず、自己のスタイルが出てしまいます。そこで現地から屋根葺き職人を招くが必要になるわけです。さいわい以前から合掌造集落が町並み保存の対象となっていることもあって、五箇山では森林組合が、白川村では有志が保存組合を結成して茅葺き屋根の技術を継承するなど、現地の体制は着実に整備されています。しかも昨年の世界遺産登録が茅葺き屋根およびその技術保存に追い風となっているようです。本園としても、すでに昨年の旧野原家の総葺き替えにおいて五箇山森林組合の茅葺き技術を導入して成功した経験があります。

今年の合掌造屋根修理は、旧山下家の15年振り三回目の総葺き替えと、旧山田家の差し茅修理、旧江向家の部分修理でした。総葺き替えは、古い茅を取り去って新しい茅（ススキ）で葺き直すのですが、今回は下地からすべて締め直しました。従来「ネソ巻き」が行われていなかったからです。一方「差し茅」というのは茅葺きの簡便な修理方法の一つで、傷んだ屋根面に新しい茅を差し込んで繕います。差し方は地域によっていろいろあるようですが、今回は屋根面全体にわたって差し茅を計画しました。また、江向家の場合は雨漏箇所を応急的にふさぐ修理にとどめました。そして工事元請会社の理解のもと、旧山下家は白川郷茅葺き保存組合、旧山田家と旧江向家は五箇山森林組合の協力を得ることができました。旧山下家は2月～3月にかけて、旧山田家・江向家工事は2月後半に行われたので、しばし「世界遺産の茅葺き技術競演」を楽しむことができました。この時の作業記録はパネル等で展示する予定です。

こうして修理された合掌造を前にすると、「日本民家園で合掌造4タイプのうち3つをみることができます」という文句が実感できます。ちなみに残りの荘川村タイプは横浜の三溪園に移築されているので、川崎と横浜で効率よく「合掌造めぐり」ができるのです。なお、日本民家園では開園30周年記念事業の一環として「合掌民家講座」や「園内建物解説ツアー」を企画しておりますので、興味のある方は参加して下さい。



旧山下家の「ネソ巻き」
下地材の結束にはネソか縄を使うが、クダリとヤナカ（水平材）はネソ巻きで十分締め付ける。